横浜市立 矢向小学校　　学校評価報告書　（ 令和 元 年度 ）

重点取組分野	令和　元　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①TT、取り出し等個に応じた指導の充実を図る。②地域を活用した学習や体験的学習を展開することで子どもが主体的に学ぶ力を育成する。③重点研究を通して、学びに向かう意欲が高まる単元づくりを行い、主体的に行動する力の育成に向けたカリキュラムマネジメントを推進する。	①3～6年生で算数のTTを実施。課題のある児童に個に応じた指導を行った。取り出し授業を保護者・本人と相談し個別に指導した。②生活や総合・理科や社会を中心に体験的・探究的な単元づくりに努めた。③カリの作成を学年ごとに実施した。	A
豊かな心	①各教科で人権教育を基盤とした授業を行い、家庭と連携しながら人権感覚・人権意識の高揚を図る。②地域が関わる活動を活用し、地域の方と触れ合い、地域愛を育てる。③YPアセスメントを活用し、一人ひとりに寄り添った丁寧な指導を行い、自己肯定感、他者意識の向上を図る。	①人権週間を活用し、子どもの発達段階に応じた授業を行った。②職員が率先して地域行事に参加し児童と共に地域の方と触れ合った。③職員のYP研修を行い、年2回のアセスメントで気になる児童を中心とした学級経営を行った。他学年を尊重し合う姿が見られた。	B
健やかな体	①休み時間を活用した体力を高めるための活動を児童が企画実行できるよう支援し、体力向上並びに生活習慣の向上を図る。②学校保健委員会を中心に怪我の予防についての活動を行ったり、養護教諭、栄養技師と連携し、保健・安全・衛生や食育に対する関心を高めたりする。	①うがい・手洗い・教室の換気等を呼びかけたり、全職員での嘔吐処理対応を見直したり、感染症予防や拡大防止に努めた。②保健委員会で、けがの起こる場所や数を調査し視覚化し、けが予防の活動をした。熱中症対策も工夫して実施した。	B
特別支援教育	①特別支援教育の必要な児童の情報共有をし必要に応じて援助チームを活用したり、個別指導計画に基づいて指導を行ったりする。②教室環境や学習の流れのユニバーサルデザイン化を図り、学習環境の整備やルールの共通理解を推進する。④国際教室のさらなる充実を図る。	①外部機関や保護者と連携し、個別指導計画を立て丁寧なチーム支援を行った。②ユニバーサルデザインの共通理解を図り教室環境を整えた。個別支援学級の教室づくりも改善を始めた。③外部と連携したり、国際教室の情報を集め、積極的に支援を行った。	B
児童指導	①全教職員が「矢向小ガイドブック」・いじめ防止基本方針を共有して、軸のぶれない指導を行う。②児童の情報を共通理解し、一人ひとりを細やかに組織で支援するために、即時的、定期的な情報交換を行う。③関係諸機関と連携し、必要に応じてケース会議を行い、課題解決を図る。	①児童指導場面をとらえ、すぐに児童支援専任を中心に軸のぶれない迅速な指導を行った。②コーディネーター連絡会や児童指導会議を活用し児童指導の課題を全職員で共有しチーム対応した。③SCやSSW、子家や児相と連携し、丁寧に課題を解決した。	A
地域連携	①地域の方による学習支援を活かしながら、地域学習や歴史学習、音楽学習、環境学習、キャリア学習の充実を図る。②地域の畑を活用した野菜栽培、ホタルの飼育と観賞、矢向小サポーターズと消防署、区役所と連携した防災事業を実施し、学びの深化を図る。	①おやじの会と連携した6年生のキャリア教育、史季の郷を活用した昔調べや園芸は連携を深め学習成果を上げた。②ホタル観賞20周年は例年より活動を充実させ成功させた。防災教育は実際の台風などの教訓を含め自分事としてとらえられるようになってきた。	A
教育環境整備	①児童数・学級数増に向け教室化工事や給食室設備の整備を行い、特別教室使用割り当て、学校行事、校外学習や宿泊学習の課題の改善を行う。②老朽化した施設や消耗した備品、不要物の廃棄等をチェックし、予算化して改善していく。	①エアコン設置、教室化工事、下水管の改修など計画的に進めることができた。給食室は1000食に対応できる環境を整えた。カリマネの中で体験学習や行事の見直しを行った。②事務職員や技術員を中心に安全点検に基づく改善を迅速に行っている。	A
豊かな心	①一言コミュニケーションとして、様々な場面で自分から挨拶ができるように指導する。②温かな人間関係・自己有用感を育めるよう、他学年や幼・保、中との交流の場やかかわりを充実させていく。	①様々な学校行事で自己表現できる場を増やしたり、互いに学び合える学習の場を考えた授業づくりをし、表現力が向上した。②幼保との関係が大変増え、互いに成果が見られた。また幼保との活動の広がりを見せた。	B
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針を共通理解し、多様な視点で児童の状況をとらえ、児童や保護者に寄り添って、組織的な支援体制で関係諸機関と連携・協働しながら早期発見・解決や未然防止に努める。②いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有しながら、実態把握、再発防止に努める。	①いじめについては継続案件が大幅に解消された。いじめの定義を職員がよく理解し、事案を一つ一つ丁寧に対応した。初期対応の力が向上している。②未然防止については担任や教師の見取りをさらに向上させる必要がある。記録の徹底も確認した。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	①各種職員研修を年間計画に位置づけ、教職員の危機管理意識、人権意識の向上を図る。②メンターチームの充実とミドルリーダーの学校経営参画を推進する。（学校組織再編や担当業務の分散化による会議・作業等の効率化を検証する。ミライムを活用し打合わせの簡略化を図る。職員個々のワークライフバランスを支援する。）	①職員同士で高め合える雰囲気ができてきた。リスクマネジメント力が向上している。②ミドルリーダーが若手の指導をよくしているので、若手が安心して力を伸ばしている。教務主任を中心に働き方改革や学校運営の改善を行った。風通しの良い職場環境になってきた。	B

ブロック内評価後の気付き	矢向中学校ブロックの職員が一堂に会しての合同研究会や中学1年生と6年生担任による情報交換会を行うことを通して、9年間で育てたい子ども像である「輝く未来を切り拓くたくましい子」の実現に向けた研究を深めたり、子どもたちが安心して学べる学校づくりについて共通理解したりすることができた。
学校関係者評価	・主体的に行動できる子を目指して、もう少し地域でも特に高学年を大人扱いしていくとよいのではないか。例えば何か地域行事の仕事を任せるなど。そのためにさらに地域行事への児童の参加を促してほしい。 ・子どもたちは昨年度に比べ落ち着いていると感じる。挨拶もよくしてくれる。 ・登下校の歩行マナーが気になる。交通事故にあわないよう指導していきたい。そのためにも矢向小学援隊のメンバーを増やしていきたい。学校からも募集をかけてほしい。

中期取組目標振り返り	地域や諸機関との連携や地域活用の学習など、地域との関係は昨年に比べ良くなっている。いじめや児童指導面の継続案件が減り、職員のそれらをとらえる質も向上し大きな事案になる前に解決策を打てるようになってきた。登校渋りや不登校の児童の数が依然多く、学力向上はある程度の成果を見せてきたので、児童にとってより安心で楽しい学校となるよう教育活動を改善したい。働き方改革は仕事の精選や効率化は進んできた。若手人材の力が伸びている。学校運営協議会立ち上げに向け来年度は動き出したい。新しいカリは実践し今後改善を続けていきたい。